

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問看護ステーションにおける時間外対応の実態調査 ～がん患者と非がん患者の電話相談の比較～
演者名	○矢尾知恵子 ¹⁾ 、船浪紀子 ²⁾ 、一戸由美子 ³⁾
所属	社会医療法人 河北医療財団 河北訪問看護・リハビリステーション阿佐谷 1)、2) 河北家庭医療学センター 3)

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

在宅療養者と家族が在宅生活の維持と質の向上を図るためには、医療とケアを担う訪問看護の 24 時間対応の役割は大きい。そこで、訪問看護師が時間外電話相談に要した看護時間と対応について記録をもとに把握し、これらをはんと非がんで調査した。

方法

2014 年 5 月から 9 月の 5 か月間に、当事業所で時間外電話対応した実態を独自に作成した記録票をもとに集計分析した。

結果

電話相談件数は述べ 257 件であった。平均通話時間は 6 分であり、時間帯は営業時間終了後の 17 時～20 時が多かった。相談者の多くは家族(72.0%)であり、その殆どが主介護者(94.4%)だった。がんと非がんの平均通話時間は、がんが 4 分半であるのに対し非がんは約 7 分だった。電話内容はがん非がん共に身体症状が半数を占めており、次いで経過報告が多かった。しかし、次に多かったのは、がんは処方薬であるのに対し非がんは精神症状だった。身体症状の内訳は、がんは疼痛、呼吸苦、発熱の順だった。一方、非がんは発熱、便症状、嘔気・嘔吐だった。電話当番の看護師は受持ちではない療養者に対応していた(87.2%)が、対応後に主治の医師や担当看護師に相談した割合は 19.5%と低く、電話当番の看護対応で完結していた。

考察

訪問看護師の時間外電話対応に要した看護時間は一日あたり約 10 分であった。がんの場合は約 8 分であるのに対し非がんは約 12 分と、非がんの療養者家族への対応時間が長いことがわかった。非がんの対応に精神症状(不安等)があることから時間を要した可能性がある。非がんは、状態が安定していることから精神的ケアががんに比して手薄になっている可能性が考えられた。また、電話当番看護師で対応が完結できている点については情報共有が充分できていることが示唆される。実際にどのようにアセスメントし看護診断しているかについて更なる調査を進めたい。